

平成 26 年 4 月 25 日

各 位

会 社 名 フューチャーアーキテクト株式会社
代表者名 代表取締役会長兼社長 金丸 恭文
(コード番号 4722 東証第一部)
問合せ先 執行役員 中島 由彦
(TEL (03) 5740 - 5724)

平成 26 年 12 月期第 1 四半期連結業績のお知らせ

1. 平成 26 年 12 月期第 1 四半期連結業績について：

当社グループの当第 1 四半期（平成26年 1 月 1 日～平成26年 3 月31日）の連結業績は、

売上高	8,004百万円	(前年同期比 26.3%増)
営業利益	870百万円	(前年同期比 49.7%増)
経常利益	899百万円	(前年同期比 31.7%増)
当期純利益	509百万円	(前年同期比 9.1%増)

となりました。

当第 1 四半期におきましては、当社及びFutureOne株式会社が好調だったこと、株式会社 eSPORTSが加わったこと等により、前年同期と比較して連結売上高が増加しました。また、前年同期と比較して売上高販管費率が低下したこと等により、連結の営業利益・経常利益・当期純利益についても増加いたしました。

各セグメントの業績については以下のとおりです。なお、文中のセグメントの業績数値は、セグメント間の内部売上高又は振替高を調整前の金額で記載しております。

(1) ITコンサルティング事業

金融業・製造業・流通業・サービス業の業務改革を伴う IT システムの刷新・統合に関するプロジェクトが引き続き順調に進捗し、売上が前年同期比で増加いたしました。また、大手地方銀行において、金融クラウド (SKYBANK) のフレームワークを活用した最新の渉外・融資支援システムが稼働開始し、金融業向けのソリューションメニューが拡大しております。

東南アジアのビジネスについては、前年同期比でマレーシア子会社は売上・営業利益とも増加したものの、シンガポール子会社で一部の ERP 導入コンサルティング・サービスの開始が遅れたことにより赤字額が拡大し、合計の売上高は323百万円（前年同期比27.7%増）、営業利益は29百万円の損失（前年同期は27百万円の損失）となりました。

この結果、売上高は4,809百万円（前年同期比12.9%増）、営業利益は685百万円（同34.0%増）となりました。

（２）パッケージ&サービス事業

FutureOne 株式会社は、複数の大型プロジェクトの稼働開始、消費税率改正対応、Windows XP のサポート終了に伴うバージョンアップ等により売上・利益とも大幅に増加しました。株式会社アセンディアも、売上・利益とも堅調に推移したことにより、売上高は1,376百万円（前年同期比29.7%増）、営業利益は192百万円（同336.8%増）となりました。

（３）ニューメディア&ウェブサービス事業

前年第２四半期末に連結子会社とした株式会社eSPORTSは、スポーツ・アウトドア用品のネット販売が好調に推移し、売上・利益とも増加しました。一方、東京カレンダー株式会社は、ネットサービス化の遅れにより売上が微減となり、出版の原価が上昇したことも合わせて、前年同期比で赤字が拡大しました。

この結果、売上高は835百万円（前年同期比816.7%増）、株式会社eSPORTSののれん償却額を反映した営業利益は26百万円の損失（前年同期は4百万円の損失）となりました。

なお、株式会社eSPORTSの連結子会社化に伴い、「ニューメディア&ウェブサービス事業」を新たなセグメントとして追加し、同社及び前第１四半期において「その他」で集計していた東京カレンダー株式会社を当該セグメントにて集計しております。前年同期比については、前第１四半期の数値をセグメント変更後の数値に組み替えた上で比較を行っております。

（４）企業活性化事業

食品スーパーを営む株式会社魚栄商店において、売上高は1,152百万円（前年同期比2.2%増）となりましたが、粗利率の低下や電力料金の値上がり等により、営業利益は11百万円（同48.4%減）となりました。

２．今後について：

（１）ＩＴコンサルティング事業

戦略的な企業統合や組織再編を積極的に推進してゆく企業にとっては、経営の革新と同時に旧来システムの統合や刷新が喫緊の課題となっております。創業以来、当社グループは本課題の解決のために、最新のＩＴシステムの提供に努めてまいりました。

こうした状況下で積み重ねた現行ソースコードの科学的分析手法（ファクトベースアプローチ）や大規模システムのダウンサイジングノウハウ、更には分散リアルタイム技術を駆使したITプラットフォームの提供により、今後とも顧客の敏速な経営判断に貢献してまいります。

また、品質管理の強化・向上のために自社開発したリアルタイムプロジェクト監視システムについては、当社内の使用に止まることなく顧客と共同利用することにより、更なる品質向上を目指してまいります。

シンガポール・マレーシア・タイの子会社については、SAP社との連携や販売パートナーとの協力関係を強化することで、顧客数が徐々に増加しております。今後とも更なる顧客層の拡大に努めることや、子会社間での提案やデリバリーにおける協力体制を強化することにより損益の改善を目指してまいります。また、東南アジアや中国に進出している日本企業からの引き合いも増えており、当社と東南アジア子会社間での連携したサービスの提供も進めてまいります。

（２）パッケージ&サービス事業

FutureOne株式会社においては、プロジェクトの採算・品質管理の強化への取組により利益率が向上しております。今後ともEコマース関連のソリューションなど他社との提携を強化し、売上・利益の拡大を目指します。株式会社アセンディアにおいても、プロジェクトの採算管理システムを取り入れ、利益率の向上を図ってまいります。

（３）ニューメディア&ウェブサービス事業

株式会社eSPORTSは価格やサービスの面で消費者からの評価が高く、スポーツ・アウトドア商品のネット販売が拡大していくものと思われます。今後は、インターネット上でのスポーツ関連のコミュニティーを創出するようなネットサービスの開発にも取り組んでまいります。東京カレンダー株式会社は、雑誌メディアとインターネットサービスの連携によるオリジナルなサービスを本格的に開始することを目指してまいります。また、株式会社eSPORTSと東京カレンダー株式会社とのコラボレーションによる新たなサービスの提供も検討してまいります。

（４）企業活性化事業

株式会社魚栄商店においては、店舗スペースの効果的な活用やポイント制度の見直しなどにより顧客の来店増加や収益の改善に結びつく施策を実施していきます。同時に、個々の店舗や商品毎の売上や粗利のデータの見える化等、中小スーパーのコスト構造に見合ったIT

の利活用によって売上や利益の向上を図ってまいります。

なお、平成26年12月期の第2四半期及び通期の業績予想につきましては、前回発表（平成26年2月6日付）からの変更はございません。

以 上

●本件に関するお問い合わせ先：

フューチャーアーキテクト株式会社 IR 担当 池内

IR 直通 Tel：03-5740-5724 電子メール：ir@future.co.jp